

## センター8割を達成した大学受験勉強法

### ■はじめに

はじめまして、レオです。

「センター8割を達成した大学受験勉強法」

をご覧くださいありがとうございます。

僕は旧帝大の工学部を卒業し、今は 24 歳です。

「この人は高校時代に受験勉強を頑張ったんだろうな」

「もともとガリ勉で頭がよかったんだろ？」

と言われることが多いですが、それは誤解です。

僕はガリ勉でもなければ、

高 1 高 2 まで勉強なんて一切せず遊びつくして

高 3 の 5 月、部活を引退するまでは偏差値 38 の落ちこぼれでした。

そこから 7 ヶ月半ほどの勉強で、

センター試験では 756/900 点、旧帝大工学部に合格しています。

おそらくこのように書くと、

「あーはいはい。よくある胡散臭い逆転合格のあれね」

と思われるかもしれませんが、

巷にありふれた嘘か本当かもわからないような

糞つまらない逆転合格ストーリーを書くつもりはありません。

すべて事実に基づく僕が実践した勉強法で、

あなたの成績もみるみる向上していく具体的な受験戦略です。

同級生ヒーヒー言いながら成績が伸び悩んでいるのを横目に

颯爽と抜き去っていくのはまさに快感です。

このレポートを読むことで、

受験合格のヒントが多く見つかるはずです。

あとちなみにこのレポートの中では、

できるだけ簡単に理解しやすい言葉で書くように意識していますが

所々、抽象的な説明をしたりもしています。

国語の評論文を読むような感覚で

何度も繰り返し読むことで、

理解レベルまで内容を落とし込む練習だと思ってください。

そうすることで文章を読む力が付き、

国語を始め、他の教科にも通じる「読解力」の向上に繋がります。

では、本題に入っていきます。

### ■全部やれば受かる。穴があれば落ちるマインド

それでは、さっそく内容に入っていきたいと思います。

まず最初に、受験勉強は戦略がすべてです。

どの教科にどれくらいの時間をかけるか、

手を抜くところはどこか。力を入れるところはどこか。

この戦略の立て方で勝負が決まります。

ちなみに僕が受験勉強に費やした期間は 7 ヶ月半ですが、

これをあなたは短すぎだと感じますか？

僕はこの7ヶ月半という期間は異常に長く感じました。

「いつになったら受験は終わるんだろう・・・」

と、無限に続く受験地獄のようにすら思いました。

はっきり言って7ヶ月半っていうのはかなり長いです。

いくらでも戦略次第でガツガツ勉強できる期間の長さです。

じゃあこの決められた期間の中で何をするのかというと、

取り組むべき勉強を“細分化“して全部やる、です。

例えばセンター試験で8割以上の得点を目指したり、

そこそこの偏差値の大学を狙うのであれば、

5教科すべてを一定ラインレベルまで上げる必要があります。

数学だったら、二次関数を完璧にする、

確率を完璧にする、微分を完璧にする、

みたいな感じで 1 つ 1 つ潰していく。

で、これを全教科全分野にわたってやれば、

必然的に大学は受かります。逆にどれか穴があれば確実に落ちます。

受験勉強っていうのは 99%が「タスク処理能力」です。

柔軟な思考、すばらしい発想力なんてものは求められてないです。

ひたすらタンタンと自分で決めたタスクをこなしていくだけ。

国語も英語も数学も理科も社会も、

教科書や問題集を 1 つ 1 つタンタンとこなしていく。

いかに効率のいいタスク処理人間になれるかで結果が決まります。

大学受験に失敗する人というのは、

- ① ゴールから逆算して自分がこなすべきタスクを理解していない
- ② タスクを実行できなかった

このどっちか（もしくはどっちも）です。

受験勉強ってというのは『細分化』して捉えるのが超大事。

細分化してタスクを全てやり遂げる。

センター8割以上を実現するために

各教科でやるべきことは後ほど具体的に解説します。

## ■受験勉強の半分はベッドの上でできる

僕は塾にも予備校にも通わなかったし、

学校での授業もあまり重要視はしていなくて

家庭学習のみで受験を乗り越えました。

しかもこれはけっこう驚かれるんですが、

家での勉強はほとんどベッドの上でくつろぎながらやってました。笑

基本的に勉強は机に向かってやる必要はないです。

それにペンを持つ必要もほとんどありません。

なぜなら、1 回書いて覚えるよりも、10 回読んだ方が  
100 倍効率がいいし、無駄に疲れなくてラクだからです。

僕が受験勉強を開始した時、

教科書のほとんどの部分が理解不能でした。

化学のモルとかも意味不明だったし

数学の微分もベクトルも謎だったし

日本史の覚える範囲の多さにも絶望しました。

この 0 の状態から、理解を深めていく方法は

『書く』よりも『読む』を重要視することです。

1 周目

「あ、なんか書いてあった」

2 周目

「何言ってるかよくわかんねーけどそうなんだ」

3 周目

「やたらこの言葉使ってるなー」

4 周目

「あーなんとなく理解できた気がする」

5 週目

「だいぶわかったけど、まだあの部分は納得できないわ」

6 周目

「なるほど、ほとんど理解できた」

7 周目

「完璧や」

こんな感じで、とにかく理解するまで読む。

もちろん 1 周っていうのは教科書全部じゃなくて、

分野ごととか、章ごと、単元ごとに細分化しての話です。

そしてこれは超大事なんですけど、

読むのは教科書とは限らなくて、問題集も同じです。



問題集は読み物です。

別に答えを書かなくてもいいから、

問題集の問題を読みながら頭の中でなんとなく解いてみる。

わからない問題はすつとばしてよし。

一通り問題を眺めたら、すかさず解答を見ましょう。

問題集の解答は最高の教科書です。

教科書や参考書とは違い、

実際に試験で出題される具体的な形で学べるわけなので、

これをひたすら読みまくればいいんです。

なぜか、

問題集でいきなり解答を見るなんてもったいない！

という謎の風潮がありますが、

頭を悩まして問題を解くのに時間とエネルギーを使うより、

解答を片手に照らし合わせながら 10 回読んだ方が、

みるみるうちに知識が吸収されて力がつきます。

5 教科全てにこの原理が通用します。

だから僕はペンを持たずに、

ベッドに寝転がりながらひたすら『読む』に重点を置き、

この方法でセンター8 割越え、旧帝大合格しました。

受験勉強はとことん“ずる賢く”いきましょう。

ちなみになぜベッドの上だったかというと、

高3 になるまで勉強する習慣がなかった落ちこぼれの僕にとって

くつろぎながら省エネで勉強できるのが合っていたからです。

## ■センター8 割越えを狙う各教科ごとの対策

ではここから、具体的に各教科ごとに

実際に僕がどのような勉強をしたのかを話していきます。

僕は理系だったので、

国語、日本史はセンターのみ

数学、化学、物理、英語はセンターと 2 次試験

という受験科目です。

## 英語

じゃあまず、あえて英語から説明します。

なぜかというと、受験の鍵は英語を伸ばすことだからです。

僕が受験勉強を開始した時、真っ先に力を入れたのは英語です。

もちろんそれにはちゃんとした理由があり、

英語は 5 教科の中で唯一、中立な科目です。

文系、理系に関係なく平等な科目で

大抵センターでも 2 次試験でも受験科目になります。

つまり、絶対に英語で足を引っ張るわけにはいかない。

逆に言うと、英語をぱっぱと攻略してしまえば、

センター200 点の配点、2 次試験の配点、

どちらの点数も確保できてうほうはなんじゃないか？

この発想は大正解でした。

英語を最初に攻略して得意科目にすることで、

めちゃくちゃ受験勉強が楽になり、余裕ができます。

例えば僕と同じく理系で 2 次試験がある場合は、

本当の勝負は数学と理科です。

数学と理科こそゴリゴリ勉強するべきであり、

言ってしまうと英語に構っている場合じゃないのです。

しかし配点もそれなりに高く無視できないからこそ、

先に英語を攻略してしまい、得意科目にした時にはマジで武器になります。

じゃあ、英語をどのように勉強していくのかというと、

まず、英語は長期戦だと思って攻略してください。

他の科目は割と短期でガーッと詰め込むのも大事なんですけど、

英語に関しては毎日コツコツ時間をかけて勉強する科目です。

ですからポイントは【習慣化】。

僕の勉強スタンスとしては、

英語のために貴重な勉強時間はなるべく使わずに

隙間時間と習慣の一部として攻略することです。

では具体的に。英語の勉強で必要なのは次の 3 つだけです。

- ・英単語
- ・文法（最低限だけ。重要ではない）
- ・長文（ひたすらこれ）

#### ◆英単語

まず英単語の勉強法ですが、

僕はすべて音声学習で英単語を覚えました。

僕の高校ではシステム英単語を使っていたのですが、

シス単は別売りで音声CDが販売されています。

そのCDを書店に買いに行って、音声学習に使いました。

単語帳と睨めっこするのではなく、音声を聞くことによって

効率的に英単語を暗記するという考えです。

なぜこの発想に至ったかというと、

センター8割以上を目標とするなら

だいたい1200~1800の英単語は覚えたいところ。

でもこれだけの量をまともに覚えるには

ハンパじゃない時間がかかりますよね。

正直、たかだか英単語ごときに

貴重な勉強時間を割くのはもったいない。だからこそ音声学習です。

まず、食事中。

テレビを見るのは我慢して、代わりにシス単の音声を流しました。

くだらないバラエティを見るよりよっぽど良くないですか？笑

それと通学中も同じです。

バスの中でも聞いてたし、歩きながらでも聞きます。

こうやってすき間時間に、

繰り返し何度も何度も同じ音声を聞く。

そうすると潜在意識に英単語の意味が刻まれていって、

気づけば記憶に定着されていきます。

僕はこの音声学習という方法で、

受験に必要な 2000 の英単語をだいたい一通り覚えました。

(だいたいでもいいです。完璧である必要はない)

これは全てすき間時間にやったことなので

英単語を覚えるのに使った時間は実質 0 時間です。

◆文法

文法の勉強は基本的にいらぬです。

最低限だけ頭に入れておいてください。

あとは長文を讀んでるうちに身につきます。

僕の場合、最初の 1 週間くらいだけ、

文法の知識をザーッと詰め込みました。

もちろん全然完璧じゃないけど、

とりあえず一通りなんとなく覚えたら、あとは長文でいいです。

#### ◆長文

とにかくこれ。

受験英語は長文をいかに讀んできたかで決まります。

僕は勉強を開始した時点では、

英語の長文問題なんて全く意味不明でした。



センター形式の英語では、

試験時間が 120 分あっても足りなかったくらいのレベルです。

その状態からセンター本番で 192 点を取れたのは、

ひたすら大量の長文を読み込んだからです。

英語は語学なので、やはり量をこなしていくのが一番です。

特に長文なんていうのは、読めば読むだけ力が付いていきます。

「なんだ、そんなことわかってるよ」と思ったかもしれませんが、

たぶん僕のやり方は他の人とは少し変わっていると思います。

まず、ほとんどペンを持ちません。

別に問題を解こうと思って長文を読むのではなく、

読書する感覚で長文の勉強をします。

で、本文を読んでいって意味のとらえきれない箇所が出てきたら、

速攻で解答の日本語訳を見ちゃいます。

こういう感じで、英語の本文をなんとか最後まで読み切ります。

設問はおまけみたいなものですね。

なぜなら、重要なのは英語の読解力を鍛えることで、

設問を解く力をつけることではないからです。

もちろん最終的には設問を解くのも必要ですが、

それは、長文の読解力が身についてからです。

はじめのうちは、『読書』だと思って、

色んな長文の本文を何度も読んでいきましょう。

そしてわからなければ日本語訳をみましょう。

設問なんてできなくていいんですよ。

だって設問を解くのってかなりハードル感じませんか？

どうしても完璧主義になってしまって、

1～10 まで丁寧に設問をやっている人は息切れしてしまいます。

そんなことよりも、

サクサクっと何個も何十個も色んな長文を読んでいった方が

はるかに効率がいいのです。

量をこなしまくってください。

その結果どうなるかというと・・・

圧倒的な英語の読解力が身につきます。

英語を読むスピードが飛躍的に上がります。

ひたすら英語を読んできたので、

英語を英語として理解できるレベルに近づくはずですよ。

こうなればもうこっちのもので、

センターの英語が超簡単に感じるはずですよ。

自分で言うのもなんですが、僕はセンター本番の時点では

相当なレベルの英語読解力があつたと思います。

意外と英語を英語のまま読める人は少なく、

これができるとセンターの英語は時間が余ります(笑)

繰り返しますが、僕は特別なことをしたわけではなく

人よりも多く長文を読んだだけです。

1 日 1 長文を“習慣化”して読んでいました。

3 ヶ月続ければ 90 個の長文を読めます。

## 数学

数学のポイントは 1 つだけ。

「2 次試験を見据えて勉強しろ」です。

## 理科

化学・物理・生物、これも数学と同じで

「2 次試験を見据えて勉強しろ」っていうのがアドバイスです。

理系は数学と理科をゴリゴリ勉強しまくってください。

2 次でも使う場合は、2 次を見据えて勉強してください。

※数学と理科の勉強について※

正直、数学と理科は、

教科書をしっかり理解して、何度も何度も問題集を解く(読む)。

これ以外にアドバイスはあまりないです。

問題集は最高の教科書なので、ひたすら量をこなしまくってください。

書くより読む方が早いという原則も忘れずに。

シンプルに書きましたが、

理系が血反吐を吐いて勉強しまくるべきは、この数学と理科です。

逆に文系の場合は、これが国語と社会に入れ替わります。

優先度のかけ方を間違わずに、勉強してください。

## 社会

僕は理系だったので社会は 1 科目、日本史を選択していました、

そして社会はセンター試験だけだったので、

優先度としては最も低いです。

8 割取れば上出来くらいに思ってたんですけど、

本番では割といいかんじに 85 点でした。

別に自分のいいところだけ見せるつもりはないので正直に言いますが

おそらくポテンシャル的には 75~80 点くらいのレベルだったと思います。

本番では上振れして 85 点という結果になったということです。

下手すれば 75 点をとっていた可能性もあります。

まあそれでも悪くないでしょう。(センター9 割を狙うなら話は別だが)

あ、ちなみに文系は逆に捉えてくださいね。

理科 1 科目をこのレベルでボチボチやってください。

社会の勉強法は次の通りです。

- ① 学校の定期テストの時に割とちゃんと勉強する。
- ② 本番直前の短期記憶で一気に点を線で結ぶ。

この 2 ステップです。

① に関してはそんなに大事ではないのですが、

ちょうどいい機会だと思って少しでもやっておくと後々楽です。

もちろん僕も定期テストの度に毎回勉強していたわけではなく、

ぜんぜん糞みたいな点数を取ったことは何度もあります。

やっておくと便利ってかんじ。

あとは勉強の息抜き程度に社会の勉強をたま～にしていました。

② に向けて『点』をたくさん準備しておくイメージです。

そして何と言っても重要なのが②。

社会は短期記憶で勝負するのがセオリーです。

受験が終わった瞬間、すべて忘れてしまえばそれでええのです。

僕はセンター本番 2 週間前からの詰め込みで

社会は一気に片付けました。

ぎりぎりの詰め込みは不安？と思うかもしれませんが、

ポイントはセンターの過去問を解きまくる事です。

10 年分くらい遡って全部解いてください。

それとセンター形式の模試の問題も解きまくってください。

びっくりするくらいワンパターンだと気づきます。

点ができていれば線につながり、点数が一気に伸びます。

## 国語

自慢とかそういうのじゃなく、

僕は国語の現代文は、語句問題以外はほぼ 100% 正解できます。

現代文が異常に得意です。(そのワケは後で説明します。)



そして古文・漢文は運まかせで勝負していました。

ほとんど勉強時間を割いていません。(優先度は高くないから)

で、センター本番では現代文 97 点、古文漢文 60 点という結果です。

これは悔しかったですね。

模試では古文漢文次第でトータル 180 点を超えることもあったので。

本番は運まかせで勝負していた古文漢文が下振れしました。

文系の場合は僕の真似をせず、必ず古文漢文をちゃんと勉強してください。

現代文はこれから説明する方法をちゃんと理解すれば、

誰でも高得点が取れるようになります。

#### ◆現代文

現代文が得意な理由ですが、それはここまで説明してきたように

僕は全教科全科目ひたすら【読む】勉強をしてきたからです。

受験勉強の半分以上は

ペンを持たずにベッドの上で勉強していたくらいです。

数学も理科も、教科書や問題集を

何度も何度もじっくりと理解するまで読みました。

数学の問題も、化学のややこしい計算も、物理の法則も、

すべては【論理力】を養うことに繋がっています。

とにかくじっくりと読んで、理解するまで頭の中で考えるんです。

そういう勉強の仕方をしてきたからこそ、

文章を読み解く力が誰よりも高くなっていました。

国語の評論も小説も、この論理的な読解力があれば

ほとんどエラーなく正解を導き出すことができます。

ただ、僕がずっと抱えていた問題は、

読むのにすごい時間がかかったことです。

昔の僕は、読むのは遅いけど正確に読めるというタイプでした。

国語の試験とか、

「あと 30 分時間あれば絶対全部正解できるのに！」と思ってました。

ということは、

あとは読むスピードを上げるだけですよね。

現代文の勉強法は次の流れです。

- ① まずは時間をかけてもいいから正確に読む力をつける
- ② その精度を保ったまま読むスピードを上げる

①についてはすでに言ったように、

常日頃から【読む】に重点を置いて論理的な思考を磨いてください。

②は、僕の場合、センター形式の問題を毎日時間を測って解く

ということを習慣にしてやりました。

これは机に向かってペンを持って、

本番さながらにちゃんとやるようにします。

ちゃんと毎日続けていけば、

どんな人間でもスピードは少しずつ速くなりますよね。

最初は辛いですが、試験時間以内に解けるようになるまでは

頑張っけて続けてみてください。

時間は足りるけど、間違いが多いという人は

時間をかけてもいいからもっとじっくり読むことから始めてください。

以上で 5 教科分の説明となります。

あくまで僕が実際に行った経験談として書きました。

何か一つでも参考にできるものがあれば、

それだけで儲けものだと思って学習に取り入れてみてください。

英語はほぼすべての受験生のキーポイントになるはずです。

そして理系なら理系科目、文系なら文系科目をゴリゴリやること。

ここの戦略をしっかり立てることができれば、

志望大学合格の可能性は高くなりますよ。

### ■受験合格の肝はなにか？

さて、だいぶ読むのも疲れてきた頃でしょうか？笑

今から、僕が考える受験合格の最大の“肝”を教えようと思うので、

深呼吸をして、もうひと踏ん張り集中して読んでください。

.....。

では、いきます。

ここまで具体的な話も含め色々説明してきましたが、

先ほども言ったように日本の大学受験で求められるのは

”タスク処理能力”です。

世間一般では、勉強ができる人間のことを

「頭がいいんだね。勉強のセンスがあるんだね。」と言いますが、

実際は、目の前のタスクを地道にこなしていけるかの違いです。

受験に、才能やセンスはまったく関係ないです。

僕はペンを持たずにベッドで勉強した。と言うと、

いわゆる天才肌なんだと勘違いする人がいますが、断固違います。

僕は記憶力も人並みだし、頭の回転も早い方ではないけど、

淡々とロボットのように、教科書を読み、問題集を何周もして、

泥臭く勉強しています。

世間で言われる“勉強ができる人”は、強いて言うなら

タスク処理が上手い人のことを指します。

じゃあ、どうすれば効率のいいタスク処理人間になって

大学受験に成功することができるのかというと、

【文章を読む力をつけること】これが全てです。

もう一度言います。

受験合格の肝は、【文章を読む力をつけること】です。

受験勉強は、結局 5 教科とも「読む力」なんです。

国語は言うまでもなくそうだし、

社会もひたすら読む能力ですよ。

記憶力なんてのは、要はどれだけしっかり読んだかです。

数学も読む力です。

どんな難解な問題も、解答が用意されているのだから

それを読んで理解しての繰り返しです。

物理も化学も生物も、全く同じ。

その世界の言葉で説明されていることを

読んで理解できるかどうかです。

英語はちょっと特殊なんだけど、

結局、英文をひたすら読みこむという点では同じです。

このように受験“勉強”の過程で、

言葉を正確に理解する力があるかどうかで合否が分かります。

また受験本番（実際の試験）においても、

問題の意図をいかに正確に速く読み取れるかが重要です。

たとえば今この文章だって、

僕の言ってることをほぼ 100%理解できている人もいれば

残念ながら 30%くらいしか理解できてない人もいるはずですよ。

この“読んで理解する能力”の差が、受験における結果の差です。

そして、それと同時にスピードも求められます。

しっかりと理解しながら、いかに速いスピードで読めるかです。



読むスピードに 2 倍の差があれば、

受験勉強に要する時間も単純に 2 倍になります。

スタートラインが同じでも、読むスピードに差がある 2 人では

3 か月後、半年後の実力は圧倒的に広がります。

大学受験合格の鍵を握るのは、

読む力がどれだけあるかということなんですよね。

というわけで・・・

**【読む】**ということがどれだけ大事かイメージできましたか？

もし理解できたら、

今日から意味もなくノートに文字を書き写す勉強はやめて

積極的に読む勉強を取り入れていってください。

問題集の問題を解いたら、

理解できるまで何度も何度も読んで思考してください。

## ■さいごに

おつかれさまでした。

以上で一通りの内容は終わりになります。

このレポートに書き記した内容は、

受験勉強の方向性を見定める非常に重要な話です。

ぶっちゃけた話、僕は受験のテクニックや

各教科ごとの細かいノウハウとかはどうでもいいと思っています。

このレポートでも、小手先の勉強法とかは完全に無視して、

おおざっぱな話ばかりでしたよね？

それはなぜかと言うと、

受験勉強は結局、王道を突き進むしかないからです。

基礎を理解して、ひたすら応用を繰り返す。

あらゆるパターンの問題に対応できるように訓練する。

ここに裏技のようなものは存在しないので、

ひたすら地道に、ポケモンのレベル上げをするかのように

メンドクサイ勉強を積み上げていくだけです。

この事実をいち早く気づいて、

覚悟を決めた人間が受験で勝ちます。

逆に、落ちる人間のパターンは決まっています。

メンドクサイ勉強から無意識に逃げていきます。

たとえば、今回説明した 5 教科ごとの対策を読めば、

明らかに僕が力を入れた科目とそうでない科目がわかりますよね。

古文漢文とか運まかせの勝負ですからね。笑

そのかわり、数学と理科はひたすらゴリゴリやりました。

正直、数学や理科を勉強しまくるのはしんどかったです。

問題集を何周もするのは面倒すぎてそりゃあ逃げ出したくもなります。

ここで古文漢文や日本史など

浅く広く手を出そうと思えば誰でも簡単にできるし、

“勉強してる感“は満たされるのでそっちに逃げたくなります。

でも、大事なのはそこじゃねえだろと。

何の教科を伸ばすことが、志望校合格に 1 番必要なのか？

それを見定めて、ポケモンのレベル上げのような

メンドクサイ勉強に耐え抜く覚悟を決めないといけません。

すべてが戦略で決まります。僕もそうですが、

油断するとふらふら〜っと楽な方向に流れてしまいたくなるので

まずはがっちり戦略を固めて覚悟を決めてください。

そのための今回のレポートで説明した受験戦略です。

では、そろそろ筆を置こうと思います。

このレポートを読んだ感想があれば、

いつでもご連絡ください。

それでは。

レオ